東洋大学図書館ニュース

KOΣMOΣ

Vol. 15, No. 1 (No.49) 1980. 4. 30

図書館長就任にあたって 1
＝対談＝東洋大学・井上円了を語る 2
各館だより
工学部 5
白山 6
朝霞 7
図書館長の交代にあたって 8
館内だより 8
編集後記 8

図書館長就任にあたって

図書館長（経営学部教授）野村順一

「百聞は一見にしかず」"Seeing is believing." という諺がある。100回（幾度か）聞いたことよりも，1回見たほうが優るとのたとえであるが，クソマジメに，100対1について疑い出して，コンピュータで計算したところ，「五百四十聞一見にしかず」と判明した。なんと540回聞いたことも1回見たことには及ばないということだ。

ところで，われわれの目はカメラにそっくりで，暗箱は眼球，シボリは瞳孔，レンズは水晶体，ネガフィルムの役目をする網膜がある。実は，この網膜には2種類の視細胞がある。錐状体と桿状体がそれらである。一つの目におよそ7,000,000個の視細胞をもつ錐状体は色と運動を見てとる。その錐状体の周辺には一つの目で約130,000,000個の視細胞で成り立つ桿状体があって，それは明るさと運動を見るわけ。なんと人間の一つの目だけで計137,000,000個もの視細胞があるのだから驚異である。どうりで，どんな優秀な色差計や分光測色機（カラー・アナライザー）よりも，色差を識別することにかけては，肉眼は比較できないほどすぐれている。人間の目はこれまた10,000,000色も識別することが立証されている。

さて，前述の視細胞137,000,000個×2の視細胞は一つ一つが神経線維で大脳皮質の後頭葉の視覚野（17野）までつながって知覚されている。人間の感覚受容器で糸で脳ミソとつながっているのは目だけ，そのため17野を有線野と名付けている。

つまり，脳ミソがそのまま引張り出されてきたのが眼球であるから恐ろしい。まさに，「目は心の窓」である。「目は口ほどに物を言い」とは人情の機微を表現することも脳ミソの出張所だからである。

なるほど，その視覚野（17野）に接して，読書，読書記憶，理解，判断，知識をつかさどる領野がつづく。こうなると，やはり，目は知識吸収の偉大な窓口なのだ。

目を使って読みとる作業は，540回聞くことに優るだけでなく，われわれ人間の知識の84パーセントまでが読書によって獲得したものと算出されている。講義だけに頼って，自ら苦労して書物を読もうとしないならば，真理探求のスピードの急速な低下は目に見えている。

対　談

東洋大学・井上円了を語る

―その文献案内を中心に―

社会学部教授　高　木　宏　夫
図書課長　山　内　四　郎

山内　東洋大学で編纂されたもの，あるいはそれ以外のものでも，我々が大学を理解するために，どのような文献があるのかというテーマでお話をして行きたいと思います。

高木　おそろしくむずかしいテーマですね。その文献を読めばおぼろげながらでも大学の事がわかるというものはなかなかないようです。特に今の学生は，過多な情報の中から何が大事な文献かを判断する事が出来なくなっているようで，その意味では，図書館との日常的な接触が何よりも重要だと思います。

（大学史〔東洋大学創立五十年史・東洋大学八十年史〕）

山内　一応大学史としてまとめられたものに，大倉邦彦学長の時に出された「五十年史」と「八十年史」があり，これを通覧すれば，大学についてひととおりの事はつかめるのではないかと思います。特に五十年史は，原資料の豊富さという点で勝れていると言えますね。

高木　つまり編集方針として一貫したものがあるという事でしょう。けれど「五十年史」にしても「八十年史」にしても，大学のユニークさや，現在抱えている教育上の問題を理解する上では必ずしも適当な資料であるとは言えませんね。

（哲学館事件）

高木　東洋大学の歴史にとって大事な事は，その出発点が，政治権力への指向というより，物の見方考え方の根本を哲学という形で表現した民衆教育にあったという事実ではないかと思います。それが大学になって，あるいは日本の近代化に伴って，学生の職業との関係が大学の内実に大きな影響を及ぼすようになって来る訳です。

山内　それとの関係で起ったのが「哲学館事件」です。これは明治三十五年，後に学長になった中島徳蔵の卒業試験の問題，「動機善にして悪なる行為あるや」と，それに対する一学生の解答が視学官の目にとまり，哲学館（東洋大学の前身）が「国体上不穏当なる倫理教育を施行」しているという事になり，文部省によって中学・師範学校教員無試験免許の特権が剥奪されてしまったという事件です。これは大学における財政・教育その他全てに関わる大きな問題であった訳ですね。

高木　この事件に対して井上円了が比較的消極的な対応をしたという事で，短絡的に円了の右傾化とか右翼思想を論ずる傾向がありますが，それは当っていないのではないかと思います。円了が文部省と戦う姿勢を取らなかったというのには二つの理由があると思うんです。一つは教員免許状を取りあげられることによって，直接卒業生の生活に関わるという点を配慮せざるを得なかった事。そしてもう一つは，円了はもともと真宗の坊さんですから，俗世の権力と事を構えるとか構えないとかという事に対して独特の反応の仕方があったという説があるんですがその点，どうですか？

山内　そうですね。真宗という事で言えば，俗世間や権力と競合しない代わりに，独自の世界を持つという考え方は十分生まれ得ると思いますね。

（井上円了）

高木　受け身の戦いではあるが，自由の為には戦っている。そういう意味で，従来簡単になされ

ていた円了に対するレッテル張りを，この際少し検討し直さなければならないでしょう。そしてそれはやはり，円了が果たした明治期の啓蒙運動での役割に関わって来ると思うのです。円了を知るための資料というと，どういうものがありますか？

山内　円了個人を知るという意味では，東洋哲学26巻7号（大正8年）井上円了先生号――これは単行本にもなっています――があり，これには多くの方が，円了に対して実に色々な見方で書いておられます。偉人として誉め賛えていたり，またあまりにも客嗇に過ぎるのではないかと言っている人もいます。また揮毫料を，その作品の大きさによって決めたなどというエピソードもあります。

高木　その揮毫料ですが，哲学館大学退隠後は，哲学堂を作って，大学とは別に大衆教育を行なう為に投入したんだろうと思います。今まで円了は，権力に入らずに，いかに学者としてその姿勢を通そうとしたかという見方があったが，むしろ，大衆と共に歩もうとしたという点では，一貫した生き方があったように思います。彼の親戚の家などには，当時の一流政治家と彼の交遊を裏付ける資料もありますが，それは政治権力と関わりを持つとか彼の贅沢三昧を意味することにはなりません。非常に倹約家であったようです。

山内　東大卒業であるという事を特に意識しない，アカデミズムにとらわれない人でしょうね。

高木　円了は全国を啓蒙教化の為講演して歩いており，各地で非常な尊敬を受けて，円了の思想を実現しようと努力する人も相当いたようです。明治期にこれ程日本国中隈なく歩き，撤底した啓蒙運動を為し，大衆と共に歩もうとする姿勢を貫いた人は，珍しいのではないでしょうか。

（円了の業積）

高木　円了は東本願寺の留学僧として東大に入った訳ですが，その後輩に清沢満之（徳永満之）という人物がいて，哲学館で「純正哲学」という講義をしています。その中には，代数だとか幾何だとか化学などが常識的に講義の中に入っていまして，かなり水準の高い一般教養的な内容があったようです。それらを読んで見て，明治のその頃にこれだけ批判精神があって，自由なものの言い方をしていた事にちょっとびっくりしたような事がありました。そういう点からすれば，円了が「仏教活論序論」で仏教界にショックを与える。――劣等感に苛まれていた明治期の日本の，伝統的なものに対して価値を与えたこと，それは右翼・国粋主義的な評価ではなくて，ヨーロッパの哲学を通した見方で，正当な評価を与えようとしたという事で，思想界に大きな影響を及ぼしたと思います。そしてその系統を踏んだ，教育機関として巣鴨に今の大谷大学の前身の真宗大学を作ってそこを仏教の大学とし，東洋大学は仏教だけにとらわれず広く東洋や西洋の思想を広めようとした訳です。そういう意味でも明治思想界に大きく貢献したと思うんですね。「国家学会雑誌」もそうでしょう。「日本人」（後に「日本及日本人」と改題），「哲学雑誌」はもちろん，直接関係はないけれど「丁酉倫理講演集」にも多少関わっています。

山内　まあ，円了は地方へ出て講演して歩いた人ですから，資料が非常に各地方に分散していますね。

高木　野にあって，野で活動した人でありますから，図書館でも関連する資料の収集には相当にユニークな方針を以って望んで欲しいと思います。

高木　「八十年史」以後の20年間というのは，日本全国の大学にも言える事ですが，独自性が出しにくくなって来ている時代でした。ですから東洋大学を知って行くためには，これからその独自性をもう一度再検討するというか，元へ戻って考えてみる事が必要なのではないでしょうか。

（円了の評価）

山内　最近，明治百年という事もあって，明治仏教を研究する人が出て来て，円了が見直されつつありますね。例えば池田英俊の「明治の新仏教運動」とか，吉田久一の「日本近代仏教史研究」など。

高木　そういう点でようやく明治の仏教史が客観的な目で見られるようになって来ました。円了

というのは非常に近代的で，大学や哲学堂を私物化しなかった。弟さんに譲られたお寺も，寺が葬式仏教におちいることのないよう，基金を作って運営できるようにし，純粋な仏教を追求できるようにした事などです。非常に合理的ですね。

山内　三宅雪嶺（雄二郎）も書いているように，「日本人」の発刊に当って定価を「六銭五厘」と，「五厘」という端数をつけたのなどは，今のスーパーの値段のつけ方と似た所がありますね。

高木　そして，円了は生活の中の哲学を目指していたのではないでしょうか。明治啓蒙期に哲学を思想の一党一派的なものでなく実践しようという事ではないでしょうか。だからむしろ大学の教師というよりは，布教師のような存在であったと言えるのではないでしょうか。

山内　自分の考えを常に述べてはいるが，その自分の立場に固執して殻に閉じ込もるような人では決してありませんね。

高木　他に思想を押しつけない，新しい実践的な哲学の活動家だったんでしょうね。

（護　国　愛　理）

高木　けれど一方では横行する近代主義の中で，日本の土着伝統思想とつかず離れずの形であった。それが東洋大学の中で今日まで続いていると思います。今まで円了に対して，すぐ思想的にレッテルを張る傾向がありました。円了が「護国愛理」と言ったからすぐに右翼であると言ったりしていますね。けれどむしろこれは「護国愛理」を利用されたと言うべきでしょう。

山内　利用されたというのには二つの面があって，一つには当時「護国愛理」という言葉が，国家とか軍部の方針に似ているという事でそのスローガンとして使われたり，もう一つは，その言葉だけで唯物論者からは，例えば鳥井博郎の「明治思想史」（唯物論全書）などのように，両井上（哲次郎・円了）と並び称され，「国権伸長の侵略的イデオロギーと密接な連関を持つ」などと，右翼の代表的な人物のように，極めて固定的な評価を与えられていたようです。

高木　円了に対する評価というのはその辺から脱却して行かなければいけないですね。ところで円了は膨大な著作を残していますね。

山内　いわゆる学術書に類するものから簡単なエッセー，数え歌から将棋・妖怪学まで実に多岐に渡っていて，これらを一律に論ずる事が不可能な程です。

高木　円了の妖怪学というのは合理的な説明でお化けを否定するためのものであって，円了の郷里では，昔から円了の思想が浸透していたため，お化けの存在を信じていないという事を，フィールドワークによって知ることができました。

（大学・円了研究のために）

高木　いろいろとお話して来ましたが，手っ取り早く東洋大学あるいは井上円了を知ることのできる文献を指摘するのは，やはりむずかしいようですね。むしろこれからの学生諸君が，大学が整えつつある資料を活用して，例えば南船北馬集などを見ながら，自分の出身地での円了の活動と結びつけた形で，大学や円了の研究をしてくれるという事が大切なのではないでしょうか。誰か優れた研究家が出て来て，円了像を押しつけるのではなくて，学生が自分自身のユニークな見方で見て欲しいと思います。何しろ円了は，学生・大衆と共に歩んだ人ですからね。

山内　今日はどうもありがとうございました。

東洋大学・井上円了関係文献リスト

●「東洋大学創立五十年史」，東洋大学編輯・発行，昭和12.　**092：T**

●東洋大学八十年史 編纂委員会「東洋大学八十年史」，東洋大学，昭和42.　**092：T：2**

●Muirhead, John Henry. "The elements of ethics." London, John Murray, 1901.　**133.5：MJ**

●「倫理学」桑木厳翼補譯，冨山房，明治35.
（上記訳）※哲学館事件の原因となったミュアヘッド「倫理学」　**133.5：MJ：2**

●「中島徳蔵先生」中島徳蔵 先生 学徳顕彰会 編纂・発行，昭和37.　**092.82：N**

●清永清明「哲学館事件と倫理問題」文明堂，明治36.　**092：B**（続篇のみ）

●井上円了「甫水論集」博文館，明治35.　**E041：IE：10**

●宮本正尊「明治仏教の思潮―井上円了の事績」佼成出版社，昭和50.　**181.021：MS**

●"井上円了先生"，東洋哲学，第26編7号（**Z097.05：T：1-26**）．抜き刷りの単行本は，　**092.81：IE**
詳しくはカウンターでお尋ね下さい。

各館だより

工学部分館より

新入生の皆様へ

現在の大学は，一昔前の大学と違って，卒業さえすれば社会のエリートコースに乗れるという訳にはいかなくなりました。大学進学率も高まった今日では，卒業証書を手に入れる丈では通用しないのです。それではどうしたら良いでしょうか。折角，入学した皆さんは，これを聞いてがっかりしてしまうでしょうか。いいえ，その必要はありません。現在は，実力が問われている時代なのです。大学で学んだ事を着実に自分の身につけ，実力を持って卒業して行く事が大切です。

増田四郎著「大学でいかに学ぶか」（請求記号A377：S）の一節に次の様な事が書かれています。――大学で学問をすると云う事は，中学や高校での勉強とその意味が違い，自分で考える力を養う事であり，又，物事を統一的にとらえる修練の場でもある。…学問をする究極のねらいは，非常に広い意味で，一貫した立場，物の考え方により，身近に起る様々の出来事の意味を統一的にとらえる。そのとらえ方の練習にある。その練習する所が，大学の学問の一番大切な点ではないか。――この著者の云われる様に，真に学ぶ事の意味を理解して，四年間の大学生活を有意義な物にして頂きたいと思います。

大学生には，学問を追いかけていく学生と，学問に追いかけられる学生との二通りのタイプがある様に思われます。前者は，常日頃良く図書館に出入りし，図書を借り出し，館員と顔見知りになり，充分に図書館を利用します。後者は，余り図書館に姿を現わしませんが，時々，テストやレポートに追いかけられてしぶしぶ図書館へやってきます。大学生活の間，前者と後者とでは大きな差が出来る事は，云うまでもありません。私達，館員は，新入生の皆さんが前者である事を又は前者となってくれる事を期待しています。

科学技術は，すさまじい勢いで進歩していきますが，これも専門家達が，最前線で競争しているからなので，この進歩を担う人間となる為には，大変な努力が必要なのです。従って工学部で勉強しようとする学生は，数学，物理，化学そして語学など基礎的な学問を身につけることが不可欠なのです。更に専門課程に入ってからは，それぞれの分野で欠かせない知識が沢山あります。それらを自分の物にする為にも，図書館を多いに利用して下さい。

又，学生時代は，何と云っても，春夏冬の長期休暇と云う貴重な時間があり，この休み中は，本を無制限に貸出しています。そこで巾広い教養を身につける為にも，哲学や社会科学，日本古来の文学，世界の名画等，先人が遺してくれた数多くの知的遺産に接して，更には書庫にある洋書に挑んでみては如何でしょうか。

工学部が出来たのは，昭和36年ですが，その頃の図書室はA棟の教室を二つ合わせた仮住いで，蔵書も少く，貧弱な物でした。その後45年に現在の図書館が建ち，早や10年も経過しました。少かった蔵書も年々増え，昨年度予算2,400万円で，全蔵書数8万冊，雑誌約1,060タイトルになりました。受入業務も一部電算化し，省力化に努めております。

それでは，具体的に実際の利用について，少し説明を致しましょう。皆さんが，閲覧室を利用される時には，先ず，書架カードを検索してみて，どんな本が所蔵され，どこに排架されているか確めなければなりません。又，カウンターを通り抜けると右側に，“新着本コーナー”が設けられています。ここには新しく購入された本が，整理が終ってから約2週間，展示されます。尚，幾らさがしても希望の本が見つからない時は，積極的に

レファレンス・サービスを利用して下さい。白山，朝霞の相互貸借や，他大学図書館や研究施設への問合せ，紹介状の発行等を行い，文献を取り寄せたり，他の施設での閲覧も出来る様に手続きを致します。レファレンス業務もこれから，益々充実していく積りですので，御協力下さい。又，学生希望用図書費として，年間約50万の予算を取っておりますので，購入して貰いたい本がありましたら，購入希望用紙に記入して提出して下さい。

尚，専門書の中に黄色マークで学生とある物は（洋書も含め）特に学生の為に読んで貰いたい為の図書です。是非，御利用下さい。

最後に，今後の図書館をより良くする為にも，皆さんの御意見，要望などありましたら，積極的に館員にお知らせ下さい。館員一同，できるだけの努力を致します。

白山より

図書館利用について—特に新入生を対象に—

大学図書館は学生，教職員の研究教育と学習のために役立つようにと，いろいろな本，雑誌，視聴覚資料を収集，整理し請求があったらいつでも利用できるようにしてあります。したがって，図書館の利用を知ることは，大学は勿論のこと社会人としても重要な資質のひとつであるといえます。そこで当館の利用について簡単に述べてみたいと思います。

図書館に入ったら自分の目標を明確にしておくことです。単に閲覧室の使用だけだったら3，4階の各部屋を，また読書の途中で分からない漢字があったら参考室で漢和辞典をみるというように。

ところで，当館で所蔵している本は約36万冊です。その中の約2万2千冊が図書館2階の開架書庫に，約1万8千冊が参考室に開架されており，自由に手に取ってみられますが，残りの32万冊は全部閉架書庫に収納されています。閉架書庫の本は直接手に取ってみられませんから，閲覧用カード目録（辞書体，分類，雑誌誌名）を使用することになります。その目録のしくみはだいたい次の通りです。

（1） 本を書いた人の名から→著者（訳者も含む）

（2） 本の名前から→書名

（3） 著者，書名が分らないが経済学，社会学といった主題から探す→件名

上記の(1)(2)(3)をヘボン式ローマ字つづりにおきかえアルファベット順に並べたものが→**辞書体目録**

社会学，経済学，歴史のように分類表にきめられたその番号順に並べられているもの→**分類目録**

雑誌の名まえから探す目録→**雑誌目録**

その他に冊子体目録の東洋大学図書館蔵書目録，継続購入雑誌目録などがあります。これらの目録類の使用については，利用のしおりシリーズNo.3「カード目録による図書資料の探し方」1.2を参考にして下さい。以上本の探し方について述べてみました。

その他図書館利用に際しては次の利用のしおりを十分活用して下さい。

利用のしおりシリーズ

No. 1 図書館利用総合案内

No. 2 図書館の沿革と現状（未刊）

No. 3 カード目録による図書資料の探し方 1，2

No. 4 えつらん

No. 5 レファレンス・サービス（参考調査）

No. 6 雑誌・新聞の利用

No. 7 視聴覚室への誘ない

「教員指定参考書」について（白山・朝霞）

昭和54年度まで実施してきました「指定図書制度」そのものがいろいろな点でなじまないこともあって凍結することになりました。昭和55年度から，あらたに「教員指定参考書」を設けることになりました。これは従来のように，開架書庫に別置せず他の図書と同様に配架する。指定教員は，専任教員に限られていたものを非常勤講師をも含めて全教員を対象にした。学生

朝霞分館より

視聴覚係

昨年11月末より，視聴覚資料の語学テープの貸出しを開始いたしましたが，この貸出し状況を見ますと，大いに利用して下さっていますので係としては大変うれしく思っております。

また，昨年度は，視聴覚の催し物を何回か開催してきましたが，いずれの回も盛況に終りました。このように，当分館の視聴覚ライブラリーも利用者の皆様に期待されていることがうかがわれます。そこで，本年度は，催し物を月２回の定期的な行事として開催して行く予定です。

なお，今までの催し物用機材はすべて借り物でしたが，下記のように当分館として購入いたしました。

ステレオ演奏装置

プリメインアンプ	ヤマハ製ＣＡ—Ｒ11
チューナー	トリオ製ＫＡ—8300
プレーヤー	パイオニア製ＰＬ-370Ａ
スピーカー	オンキョー製Ｍ６—Ⅲ

ビデオ録画再生装置

ビデオレコーダー	ソニー製ＳＬ—Ｊ７
モニターテレビ	〃　ＫＶ—27ＡＸ１

映画上映装置

16㎜映写機	エルモ製16—ＦＲ

スライド映写装置

スライド映写機	エルモ製ＡＳ—3000Ａ

上記の機材も有効に使う資料がなければなりません。そこで，レコードをはじめ視聴覚資料もどんどん収集して行くつもりです。利用者の皆様も「このような催し物をしてほしい。」とか，「こんな資料を収集してほしい。」とか言う，ご意見・ご希望等をどしどしお寄せ下さい。

専用の必読書の性格をもっていた「指定図書」から普通の参考書の性格に枠が広げられたことなどです。

講義を進めるうえで必要な参考書を教員に指定してもらい，リストを講義要項の内に掲載してあります。図書館ではその参考書を取り揃えて，開架書庫に一般図書と同様に配架してあります。利用者は開架書庫に入って直接探すか，閲覧用（分類・辞書体）目録で請求記号を調べてから図書を探しても結構です。館内閲覧，館外貸出のいずれもいたします。

閲覧係

新入生の皆さん，御入学おめでとう。新二年生の皆さん，御進級おめでとう。朝霞の２号館３階にある図書館からのお知らせです。

朝霞分館では，この４月から図書館資料を皆さんによりいっそう利用してもらえるように，資料の貸出しの枠を下表のように広げました。

資料	貸出数	貸出期間	更新(継続)
一般図書	3冊	2週間	1週間
雑誌	2冊	1週間	不可
視聴覚	1点	2週間	1週間

※更新…いま借りている資料を継続して，もう一度借りること。

それぞれの資料が別枠で借りられます。最高６点まで，朝霞分館の資料が館外で利用できます。尚，更新する時は借りている資料を持参して下さい。皆さんの利用を朝霞分館一同，心からお待ちしています。

<「雑誌用の囲いができたって！」
「へえーっ，かっこいい。」>

雑誌係

去年の朝霞分館を知っている皆さん，そして，新入生の皆さん，書架が変わったのにお気付きですか？　書架の中ほどに囲いができました。中には製本された雑誌や，未製本の雑誌のバックナンバーが入っています。

これらは決して，しまい込んであるのではなく，雑誌架に展示されている雑誌と共に，皆さんが利用してくれるのを，ひたすら待っているのです。

利用の仕方は，『継続受入雑誌目録』や『雑誌名カード』を見て，読みたい雑誌の請求記号を調べてカウンターに申し込んで下さい。その他不明な点は，遠慮なくカウンターまで相談に来て下さい。

図書館長の交代にあたって

飯　島　宗　享

二年間の任期を終えて，4月から後任者と交代する時が来た。図書館の利用者，とくに学生諸君にとっては，主として閲覧業務のフロントが図書館の顔であって，館長が何者であるかはほとんど無関心ですむことだろう。実際，館長の職務は，大学の方針に歯車を合わせながら，業務遂行の過程で館員がかかえている諸問題を解決に導いて，利用者への情報サービスの効果的な提供に方向を与えることだと，私はそう理解し努めてきたから，利用者との関係は通常二重三重に間接的なものでしかない。

だが，任期中の私の経験で意外だったことは，利用者とくに学生諸君からの注文や苦情がはなはだ少いことだった。職員は学生からの意見は小さなことでも詳細に私に聞かせてくれるのが常だから，この事実は何と解すべきか。言っても仕方がないという絶望ではなくて，実態は利用の不活溌から来ているとしか思えない。活溌すぎる利用に追いまわされて悲鳴をあげるなら本懐だが，いまはこの不活溌に波紋をおこす石の投げ方が館員にとって課題なのだ。

諸君は知っているだろうか。学生の希望する図書の購入予算が余裕さえ見せていることを。文献探索や資料に関する相談を待ち受けている参考係が，通りいっぺんのレポート課題をそのまま持ちこんでくる学生たち相手に，高度の調査依頼でキリキリ舞いさせられたいと腕を撫していることを。それに40万冊の蔵書と，他の図書館所蔵図書の文献複写の道も。もったいない話ではないか。

これから利用者のたくさんの要請で，新館長以下全館員がふりまわされることを期待する。

(3.26)

館内だより

(55年1月9日～3月28日)

▶研修・分科会等◀

1.9 書誌作成分科会　1.14 目録分科会　1.23 分類分科会　1.25 逐次刊行物分科会　1.26 書誌学分科会　1.30 閲覧奉仕分科会　2.7 書誌作成分科会　2.14 理工学分科会　3.7 理工学分科会　3.10 目録分科会　3.15—17 書誌作成分科会　3.19 分類分科会　3.26 閲覧奉仕分科会　3.28 逐次刊行物分科会

▶館内・外諸会議◀

1.17 白山連絡会　1.21 図書館長選考委員会　1.23 図書館運営委員会　1.29 全国図書館団体連絡会議(於国立国会図書館)　2.1 国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会（於国立国会図書館）　2.4 工学部分館連絡会　2.12 図書館長選考委員会　2.14 工学部分館運営委員会　3.10 文部省主催学術情報システムに関する大学図書館関係者との連絡会議（於竹橋会館）　3.11 私立大学図書館協会東地区部会（於上野文化会館）同研究部会（於ブリジストン美術館）　3.19 図書館運営委員会　3.26 白山連絡会

▶その他◀

視聴覚室主催映写会　作品：白き氷河の果てに(1.23)

編集後記

★東洋大学の歴史，いかがでした？　4年間すごす東洋大学のこと，以外に知らなかったところが多かったのではありませんか。図書館2階の展示コーナーに本紙に載っている文献のほか，多少，展示してありますので，ぜひご覧下さい。

★今期の編集委員会では，コスモスの充実をはかるために以下の様な点を改善してきました。

- コスモスの特集と，2階展示コーナーの催し物とのタイアップ
- コスモスのバックナンバー利用促進をめざした索引作成の具体化
- 利用者に直接的でない記事内容の排除
- 従来，あいまいであった編集方針の明文化

★この号で，現編集委員の任期が終了します。皆さんに読んでもらえるコスモスを作ろうと6名で努力してきました。でも，学生の方からの直接な声は残念ながら聞くことができませんでした。今後はコスモスに対する御意見等，どしどしお寄せ下さるよう，お願い致します。

東洋大学図書館ニュース　ΚΟΣΜΟΣ　Vol. 15, No. 1（通巻48）1980年4月30日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：野村順一，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel.(945) 7314番